

啓三議員はなぜ村を混乱させるのか

(三條新聞合流点 平成三十年一月二十二日月)

先日、花井さんと啓三氏の関係が乗っていました啓三氏にはあくまでも小林倒しの執念が感じられます。

その執念を村の発展に向けられないのでしょか。若い頃は民間では優秀のセールスマンだったとも、役場に奉職後は遅れを取り戻そうと自らが草履番、雑用係として歴代の村長宅に仕え村のかじとりを身近に感じてきたその経験を。しかし、氏がそれほどこまで村長に刃向かうのは、大谷擁

護だけではなく自信の数々の村政手法が、世渡りが表に出てくるのではないかとの危機感があるはずです。

井田のブドウ組合に關したことも、削減対象職員にはセールスマン時代に培った巧みな営業とトークで涙させ、出張費、交際費を自由に扱い、多くの事業者への接待などは日常茶飯事、一次会、二次会など手をすりあわせ、ご機嫌取りをされていたのを飲食店で多くの村民が目にしてきたこと

も。自由に村政を操ってきたことが明るみに出ては困るからです。

しかし、現村長にはそんな目的はなくとも新しい村政を進めて行くと昔のことが出くる。その例の二百八十万円問題にしても、村長は自ら減給し、穩便に収めようとしたが、もしそれを認めると、村長から借りを作ることになる。そうすると、それ以外のことに對しても反對できなくなってくる。外部監査に

しても、某議員の目的は何かとの質問に無駄を見つけたのが目的とも答えたとの村長報道。

昔のことを追求しても今さら村の財政が回復するわけでもなく、反村長派が心配している村の恥になるような裁判沙汰を目的にしているのではないだろう、もし裁判になっても最低は十年かかるだろうし、そんな労力は今の村には出せないはずなのに、なぜ啓三議員は執拗に反對の先陣切って村を混乱

させるのだろうか。村民は啓三議員の言動をしっかりと注視しなければならない。

(弥彦村R)